



日本政府 グローバルファンドへの拠出を増やす

2016年5月20日

東京 — 日本政府は本日、2017年から始まるグローバルファンド（世界エイズ・結核・マラリア対策基金）の第5次増資に対して8億ドルを拠出することを発表しました。為替の変動により日本円換算では、前回の誓約の46パーセント増になります。グローバルファンドは、3年に一度、三大感染症対策のために世界から資金を調達する「増資」（追加の資金調達）を行っています。

5月26-27日、三重県伊勢志摩で開催されるG7サミットを前に、本拠出は日本政府の国際保健における揺るぎないリーダーシップを象徴しています。

安倍首相は、日本政府が公衆衛生危機対応、感染症対策、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成のため支援を行う方針を発表しました。

グローバルファンドは、日本国民と政府に対して深い謝意を表明しました。

「日本は、グローバルファンドの設立時から資金的・知的両面で揺るぎなき支援国です。」とマーク・ダイブル事務局長は述べました。「三大感染症の克服と、基本的保健サービスへのアクセス、そしてユニバーサル・ヘルス・カバレッジの推進に対する安倍首相のコミットメントは、まさに国際保健における素晴らしいリーダーシップの象徴です。」

グローバルファンドの官民パートナーシップは、三大感染症から命を救い、病気を予防するために設立され、人間の安全保障とユニバーサル・ヘルス・カバレッジの推進に対する日本政府の取り組みと連動しています。これらは共に2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献します。

日本政府は、SDGs推進本部を設置し、初会合を機会に今回の発表を行いました。

日本政府は2015年12月に東京でグローバルファンドの第5次増資準備会合を主催し、三大感染症の克服を加速するための事業を支援するにあたり必要な資金を示し、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成につながる強靱で持続的な保健システムの構築について、国際保健分野のリーダーたちを交えて議論しました。

来週のG7サミットに参加するカナダのトルドー首相が5月9日に発表した今年の第5次増資会合は、2016年9月16日にカナダ・モントリオールで開催されます。グローバルファンドは2017年から3年間の資金調達額として130億ドルを目指しています。

日本は国際保健において強力なリーダーシップを発揮しつつ、議長国を務めた2000年のG8九州沖縄サミットで感染症対策が主要課題となったことが、グローバルファンド設立の発端となりました。2002年にグローバルファンドが正式に設立されましたが、それ以来、日本とグローバルファンドは密接な協力関係にあります。

#####

グローバルファンドは、エイズ・結核・マラリアの克服を加速するために設立された21世紀型の組織です。官民パートナーシップによって成り立つグローバルファンドは、政府、市民社会、民間セクター、感染症当事者コミュニティ等とともに毎年約40億米ドルを集め、100カ国で国内専門家等が計画実施する三大感染症対策事業に資金供与しています。障壁を乗り越え、革新的手法を取り入れて、政府及び関係機関等パートナーたちと三大感染症の克服を目指しています。

お問い合わせ先:

MARCELA ROJO

携帯: +41 079 540 2667

Eメール: marcela.rojo@theglobalfund.org

グローバルファンドの事業活動についての詳細はウェブサイトをご覧ください:

www.theglobalfund.org

ツイッターでグローバルファンドをフォロー:<http://twitter.com/globalfund>

フェイスブックでグローバルファンドの登録者に:

<http://www.facebook.com/theglobalfund>